

課題・目標

- ◆ 予測される災害の複合化や広域化・大規模化等に対応した、地域間の円滑な連携による災害対応力の向上が新たな課題として浮上。
- ◆ このため、**自治体の対応能力向上と、対応手順の標準化による自治体等間の円滑な応援・受援**を柱とする**災害対応DX**の実現を目指す。
- ◆ 災害状況の迅速な把握と、人文・社会科学の知見を活用した災害対応の判断支援を統合的に取り扱うため、人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」が融合した「**総合知**」による**研究開発アプローチ**を採用。

概要

【目的・概要】

災害の複合化や広域化・大規模化等に伴い、自治体を単位とする現在の災害対応システムでは対応が困難な事態の発生が想定される。そのため、災害情報を迅速に集約・共有できるようにするとともに、自治体ごとにバラバラな災害対応手順を標準化することで、**自治体等間の円滑な応援・受援を可能とするシステムを開発し、個々の自治体の対応能力を超えた災害にも、迅速かつ円滑に対応できる社会を目指す。**

【研究開発の方向性】

①「災害対応の判断支援」

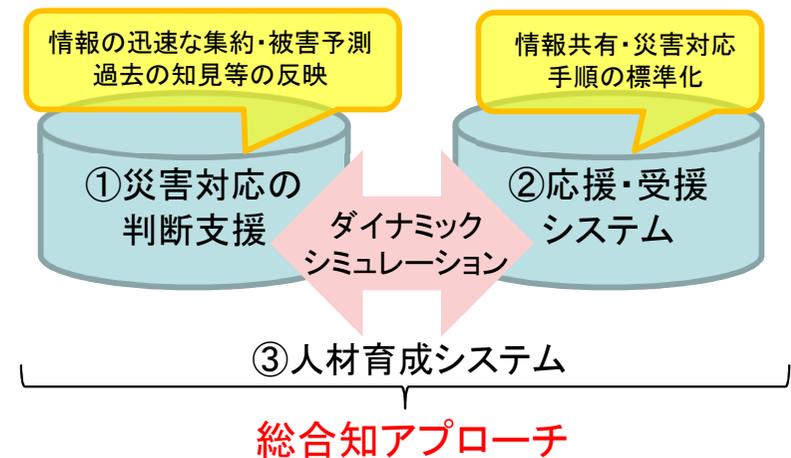
災害情報の迅速な集約と被害予測を基に、総合知を活用し、自治体に求められる対応に係る判断支援のためのシステムを構築する。

②「情報共有・災害対応手順の標準化による地域をまたぐ応援・受援システムの開発」

災害対応に必要な情報を自治体等間で迅速に共有・利用できるようにするために、総合知を活かしつつ、標準的な情報共有・災害対応手順を導入することにより、自治体等間の円滑な応援・受援を可能とするシステムを開発する。

③「ダイナミックシミュレーションを活用した人材育成システム」

上記①・②のシステムを活用し、災害対応にあたる職員等の平時の教育・訓練を行うシステムを開発する。



事業スキーム

- ✓ 補助機関: 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- ✓ 事業期間: 2022年度～2026年度



関連する政策文書

- ◆ 統合イノベーション戦略2021(令和3年6月18日閣議決定)
第一章 総論 3. -(1)-③レジリエントで安全・安心な社会の構築
(自然災害への対応)統合した情報と災害対応の知見等を分析したものを組み合わせ、総合知として活用することにより、災害対応支援に資するような研究開発課題(災害対応DX)を検討する。
- ◆ 内閣府デジタル・防災技術WG未来構想チーム 提言(令和3年5月)
4. 鍵となる取り組み案 (2)被災時の先読み能力を高める「防災デジタルツイン」の構築
○具体的なアクション2 救助の状況やキャパシティ等についてもシミュレーションしながら有効な対策を検討し、有効なものから着手できるようにする。